

MJ

Nikkei Marketing Journal

日経流通新聞

定店チェック

ハードケース人気



電気シェーバーの売れ行きが好調です。松下電器産業の「ラムダッシュ ES-LA90」は「パナソニック」ブランドで初めて発売した電気シェーバーの最高級機種。7月30日の発売以来、40台以上売っています。人気の秘密は付属しているハードケースです。

黒の光沢を放ち、持ち手には「Panasonic」と記されておりスタイリッシュです。価格は4万4800円と電気シェーバーにしては高額。同機種と機能がほぼ同じでケースがついていないタイプ「ES-LA70」に比べて5000円も高いですが、出張や旅行で持ち歩く機会が多い人やAV機器でパナソニックを愛用している人たちの支持を獲得しています。

もちろん性能も優れています。従来製品より内刃の回転数が高速になったため、早くその根元に密着して潜り込み、あご下のくせ毛もとらえます。敏感肌の人には、その際の肌への圧力が分散する外刃の多いタイプを選ぶ傾向があり、中でも4枚刃を採用する松下製が根強い人気です。

(平野隆行・ヨドバシカメラ新宿西口本店統括副店長)

ヨドバシカメラ
ロボット
ルミネ
ヴァレシアンガード
オートハッスル
セレクトモス
日本トイザラス

立ち乗り電動2輪車「セグウェイ」が自然観察ツアーなどアウトドアで活躍し始めた。公道を走ることができないことがネックになり、日本国内には数百台しかないが、限られたエリアでは力を発揮する。騒音も排ガスもでないエコ走行は自然との会話に最適。体重移動で地上を滑るように進む独特の浮遊感は体力に自信のない人の遠出もサポートしてくれる。

立ち乗り電動2輪

「友人の結婚式で行ったハワイで遭遇。その時はチャンスを逃したので日本でツアーを見つけた時『今度こそ』と思って参加しました」

富士山のふもとに広がる自然体験施設「ふもとっばら」(静岡県富士宮市)。電動2輪車のエコツアーに参加した金丸未穂さん(30)と福岡亜弓さん(35)は笑顔を見せた。旅行友達2人。静岡市から車を走らせ日帰りやってきた。

ツアーは富士山が目の前に広がる牧草地帯と木漏れ日の林道をガイドと一緒に巡る。戦国時代から残る民家の門を見たり、隠し金山といわれた裏山からしみ出る冷水で喉を潤したり。料金は座学と実技の安全講習も含めた2時間コースで8800円。

友人とオートキャンプに来ていた会社員の児山齊さん(32)は「あっこんな所で乗れるんだと思って。体重移動で自在に動く不思議な感覚。スノーボードに近いかな。講習だけでも結構ハマるね」と話す。

ガイドを務める松崎誠司さんがツアーを企画した動機は「山を身近に感じ、大切にしてもらいたかった」から。観光客に教えた名所は山ほどあるが「徒歩では時間と体力が必要。マウンテンバイクでは会話が難しい……」と悩んだ末に電動2輪車にたどり付いたという。

セグウェイの国内総販売代理店の日本SGI(東京・渋谷)は昨年5月末、地域に埋もれた観光資源の活性化を支援する狙いで「パートナー」制度を開始。ツアーのインストラクターを育成したり一定の基準をクリアした優良コースは公認して推奨したりする仕組みだ。

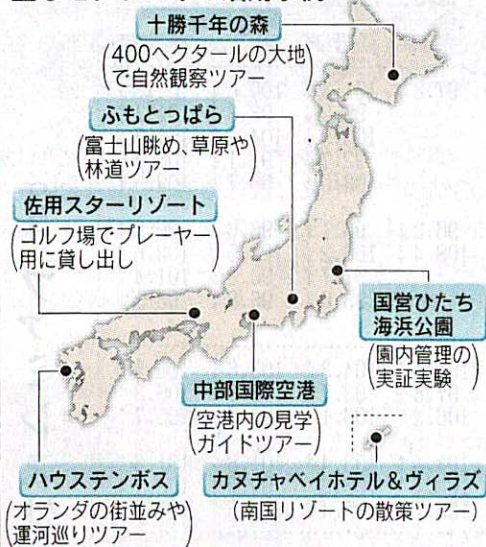
その第1号が北海道の日高山脈と十勝平野にまたがる「十勝千年の森」。約400畝ある広大な敷地が自然観察ツアーの舞台だ。1年半で1500人が参加。今年の8月は



セグウェイ野原スイスイ

沖縄のリゾートでも利用

主なセグウェイの活用事例



富士・十勝…自然観察ツアーの足に



平日も予約で満員になった。運営する農業生産法人ランラン・ファームの林克彦社長は「徒歩ツアーの時は人がなかなか集まらなかった」と振り返る。「3時間近くかかる遠出のツアーも電動2輪車なら楽々。40-50歳代の夫婦に人気が出てきた」

昨年12月にはハウステンボス(長崎県佐世保市)がツアーを開始。今年1月には沖縄・名護市の高級リゾート「カヌチャベイホテル&ヴィラズ」も導入した。

鳴り物入りで登場したものの話題ばかりが先行しがちだった電動2輪車だが、活躍の場は徐々に広がってきた。今夏の北海道洞爺湖サミットや北京五輪でも巡回警備や会場整理で利用。8月1日にはトヨタ自動

公道禁止の日本、まだ数百台

立ち乗り電動2輪車は2001年に「ジンジャー」の名前で登場。その後、セグウェイの商品名で一般に販売を始めた。価格は1台100万円程度。リチウム電池を搭載しており、電動で走る。革新的な移動手段と話題を集めたが、普及は低速走行だった。現在は世界で約4万台。日本では道路交通法で公道の走行が禁止されており「まだ数百台」(日本SGI)にとどまる。

ただ最近では欧米で電動2輪車を「E-PAMD」という新分類に区分。歩道や自転車道路の走行を認める動きが広がっている。同社によると「米国では既に40州以上で認可された」という。海外ではツアーの企画も活発。米ディズニーワールドの園内ツアーや仏パリの都市観光ツアーなどセグウェイ社の公認ツアーだけで240を超す。

オフロードタイプのセグウェイに乗って草原や森の自然観察ツアーが楽しめる(静岡県富士宮市の「ふもとっばら」)

ブームの予感

車が「Winglet(ウィングレット)」で参入を表明した。

トヨタの新型車はショッピングセンターなどの移動手段を想定する。重量はセグウェイの3分の1程度でサイズもコンパクト化。今秋から中部国際空港などで実証実験を始める。セグウェイも国土交通省が5月に国営ひたち海浜公園(茨城県ひたちなか市)の園内巡視用として実証実験を開始。JTB中部(名古屋市)は9月中旬から中部国際空港でセグウェイツアーを始めた。

野外で、そして街で。この秋、立ち乗り電動2輪車を目にする機会が増えそうだ。(高橋祐司)



トヨタ自動車は「ウィングレット」の実用化を目指し、今秋から実証実験を行う

TREND BOX

「ど黒」ティッシュ

パッケージに無気味なドクロを描いた黒いティッシュペーパー「ど黒ティッシュ」(525円)が発売され人気商品になっている。

パッケージは一面が11枚の立方体。6面すべてにそれぞれ頭がい骨、胴体の骨、下半身の骨のイラストを印刷。箱を3個用意し、縦に重ねて絵柄を合わせると、がい骨の全身像が出来上がる。頭頂部分の穴を開け、そこから中の黒いティッシュを取り出して使う。ティッシュは140枚・70組入り。

発売元はパーティーグッズ企画販売のジグ(埼玉県川口市、☎048・297・9215)。「黒い色が持つ高級感を生かした雑貨も増えたが、あえて黒の無気味さを切り口にしてみた」と担当者。



盛り塩もポップに

飲食店の玄関先などで見かける「盛り塩」は、邪気をはらって客を呼ぶと昔から信じられている風習だが、パステルカラーが付いた盛り塩「盛り塩のすすめ 四神八卦(しんはっけ)」(2940円)が登場して話題になっている。



ヒマラヤの岩塩を粉末にして食紅で着色した。ピンク、緑、黄色の3色を用意(各160g)。それぞれ塩を乗せる八角皿(直径14cm)と、塩を円すい状(高さ7cm)に盛るための型をセットで販売する。皿と型は陶器製。

色付きなので店先でよく目立ち、見た目もポップでかわいい。取り扱いには雑貨製造販売のモモ(愛知県長久手町、☎0561・62・5963)。

男の見せパン2000点

「男性用の見せパンツ」を集めた下着専門店「アンダーキング」(東京・新宿、☎03・5766・1444)が登場した。

「見られても恥ずかしくない、

